

演題

2022年度福岡県「失語症向け意思疎通支援事業」の報告2 ～OJT派遣による同行支援事例～

佐藤 文保^{1,2}, 高橋 雅子², 谷村 絵美², 金井 孝典², 徳本 郁恵², 江藤 信介², 佐々木 哲², 山家 貴仁², 妻夫木 美帆², 山口 護慶², 大内田 博文²

¹国立病院機構 福岡東医療センター, ²一般社団法人 福岡県言語聴覚士会

【はじめに】福岡県では失語症者向け意思疎通支援者(以下、支援者)の派遣を2021年度から開始し、支援者のスキルアップを目的にOn-the-Job Trainingを導入した派遣(以下、OJT派遣)を2022年度から実施している。今回、皮膚科受診への同行支援依頼に対しOJT派遣を行ったので報告する。

【利用者】40代、女性。脳出血後、軽度ブローカ失語が残存。コミュニケーションは理解・表出共に簡単な会話が可能。非流暢な発話と喚語困難があり、聞き手の推測やYES/NOでの反応の誘導が必要。屋外移動は車椅子を使用。

【利用目的】右足巻き爪の治療目的での皮膚科受診。

【方法】県登録の支援者1名に、事業運営に関わる言語聴覚士1名が指導者として派遣に同行。支援者には事前に『事前準備確認シート』と『当日確認シート』を配布し、自己チェックを促した。当日は指導者と依頼内容や注意点、心構え等の最終確認を行い、支援者主体で支援を進めた。支援に苦慮した際は、指導者が助言や補助を行った。

【結果】利用者は支援者の会話支援により、症状を医師に伝え、治療方法を選択し、巻き爪の治療を終えることができた。支援者は利用者情報や支援目的を把握していたが、利用者が求めている支援内容を具体的に想定できていなかった。また、専門用語を含む医師の説明の要点筆記や選択肢の提示がスムーズにできなかった。さらには、身体介助が困難な場面もあった。指導者はこれらの不十分な点に助言や補助を行い、終了後には支援者と振り返りを行った。単独での同行支援に向けて「事前想定」と「複雑な会話場面での会話支援」等が課題となった。

【考察】OJT派遣により、支援者は安心して支援を行い、支援技術を学び、自らの課題の認識を高める機会を得られた。またOJT派遣は、単独での同行支援に向けて不十分な点についての検討材料を事業側にも提供するものであり、事業推進のひとつの手段になり得ると考えた。